

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2770103782		
法人名	社会福祉法人 関西福祉会		
事業所名	陵東館秀光苑(Ｂユニット)		
所在地	堺市北区長曾根町1199-6		
自己評価作成日	平成 28年 2月 29日	評価結果市町村受理日	平成 28年 4月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2770103782-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 3月 11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の時間の流れを決めずに、利用者の方がその人らしい生活が送れるよう支援するという事を職員一人ひとりが意識しています。職員からの支援だけでなく、利用者の方がすすんで食後の食器洗いや洗濯たたみなど、自身の出来る事を行い、役割を持たれており、又、利用者同士で声を掛け合い協力し合う場面もみられます。
職員と利用者だけでなく、家族との関係も絶やさないように、面会時だけでなく、電話を掛けて近況をお伝えしたり、本人と話をしてもらったりと繋がりを大切にしています。職員が支援するだけでなく、利用者、家族みんなで支え合っていくという事を今後も続けていきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者、職員は、人として向き合うこと、共に持ちつ持たれるの関係であることを意識したうえで、その人らしさを大切にしたいケアを目指して、真摯にケアに取り組んでいます。1人ひとりのできる事、好きなことを活かした日々の生活の工夫、食事時間、四季に応じた室内の装飾づくり、居酒屋など利用者一人ひとりが役割を持つことや生活の中で楽しみを共有できるよう取り組んでいます。ホームの2～6階が居室で、各階はエレベーターで自由に行き来でき、ユニット間での交流を図ることができます。ハード面を活かした談話室や居間兼食堂など、自由に過ごす居場所の提供や各フロアの利用者との交流は、気分転換に繋がります。この数年は、活動面での充実を図るため、日誌の簡素化に取り組みました。ホーム内でのアクティビティの充実や一緒にお風呂や買物、花見、初詣と外出の機会も更に増えました。ホームの理念「地域の中で共に支え合い地域と共に歩む」の具現化に向けて、取り組みが進んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事故評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者とリーダー職員から全職員へ職員会議など集まる機会を利用して理念を共有し、具体的な案を出し合いながら実践につなげている。	「地域の中で共に支え合い、地域とともに歩む」を理念として「ゆったりした自由な暮らし」「穏やかで安らぎのある暮らし」「自分でできる喜びを感じる暮らし」「自分らしさや、誇りをもった暮らし」を指針としてホーム内に掲示しています。理念の具現化に向けて、「あなたの笑顔が私たちの誇り」と分かりやすい標語にして、利用者や家族、職員、家族が常に目にできる場所に掲げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域運営推進会議を通じて、校区や自治会のイベントがある際には、定期的に参加している。また、ボランティアや近隣の保育園児の訪問等もあり、地域との交流を図っている。	開所以来、地区の七夕祭り、夏祭り、もちつき大会などの地域行事に参加し、交流を深めてきました。祭りの参加は恒例となり、ホームのブースもあります。さらに、運営推進会議等を通じて、地区の民生委員や地域住民との関係も広がっています。法人の行事には地域住民の参加もあり、保育園や小学校からの訪問もあります。また、日常的には、近隣のスーパーへおやつや日用品の購入に出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>過去に介護者教室にて地域の方への認知症についての芝居を行った事がある。が、近年は無いため、まずは家族や地域支援の方々の意見などを伺い、認知症の理解や支援に向けた取り組みを行っていききたいと思う。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、利用者の状態やサービスの取り組み、行事等の報告を行い、困難事例があれば意見を求め、その内容を職員会議などで参加していない職員に伝え、全職員が周知し、サービスの向上に生かしている。</p>	<p>運営推進会議は、規程・規約を作成し2カ月に1回開催しています。会議の構成員は、利用者代表、家族、地域住民の代表者、民生委員、地域包括支援センター、知見者、職員です。できるだけ多くの人が参加できるように、日程調整を行い、葉書や電話で参加を呼び掛けています。会議では、ホームでの行事や利用者の日常生活の様子を伝え、利用者のホーム内の様々な課題についても皆で検討しています。例として、居室内の夜間転倒予防に向けた安全対策について、居室のガラスの小窓を替えるなど、日常の生活の向上を目指し、話し合いのもと決定しました。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市町村関係者とは事業所の運営などについて、疑問や相談したい内容があれば、すぐに連絡・相談を行うようにしている。</p>	<p>毎月、北区グループホーム連絡協議会に出席し、サービスの質向上にむけて、他の事業者と情報交換を図っています。また、地域全体で認知症の課題に取り組む必要性から、市内の事業所連絡協議会と協働し、事業所の実態など市へ積極的に働きかける必要性から、具体的な活動を目指しています。事故が発生した場合には、速やかに報告する体制が整備されています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>法人内に身体拘束防止委員会を設置しており、日々のケアの中で何が身体拘束にあたるのか等、具体的な項目を挙げ、共通の認識としている。外部研修等の報告や資料の配布も行っている。また、日々のケアを行う中で、気付いた事や疑問に感じた事などは、職員同士で注意し合うよう心掛けている。</p>	<p>法人全体の身体拘束委員会が機能しています。グループホームの入口は日中開錠しており、各フロアのエレベーターは自由に乗り降りでき、フロアも自由に行き来できます。管理者は、利用者への言葉遣いや対応など、職員自らが気付きや問題意識を持つことが重要であると考えています。その為の取り組みとして、職員が講師となり具体的な事例を用いて研修を行うことを計画しています。また、日々のケアで気付いたことは、職員同士で注意を促すようにしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に高齢者虐待防止委員会を設置しており、毎月話し合いの場を設けて、実際の事例を挙げ、背景や今後の対応を検討している。虐待に関する資料を回覧したりして改めて自施設の対応や関わり方などを振り返っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や文献、法人からの情報などで学んでいる。また機会があれば研修に参加し、研修記録を職員間で回覧して周知できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明を行い、質問はないか尋ねている。また、質問はなくても、入退所の条件、特養への移行の件、病院との連携の件など、不安に感じやすい件などくわしい説明を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>主に、地域運営推進会議、家族会などが、意見を汲み取る場であり、意見箱を玄関に設けている。日常的な家族の面談時にさりげなく、要望を汲み取れるよう努めている。</p>	<p>家族会の集まる機会としてクリスマス会を開催するなど、交流の機会を設けています。家族アンケートも実施し職員の対応などについて、利用者家族の声を聞くなど、質の向上に向けて積極的に取り組んでいます。家族から出された「年越しを利用者と一緒に過ごしたい」との希望に応え、一緒に居室に泊まれる環境を整えました。常に、家族とともに利用者を支援する姿勢で、関係構築に努めています。また、写真を満載した「秀光苑たより」では、行事の様子や誕生会、外出などの活動の様子を紹介しています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的なカンファレンスや職員会議、勉強会を実施しており、そこで職員からの意見を聴く機会を設けている。</p>	<p>職員の退職はほとんどなく、管理者は、職員の提案について、可能な範囲で実施できるよう支援しています。また、働きやすい環境を整えるために、勤務表などもできるだけ職員の声を反映できるように努めています。新規入居者の受け入れに関しては、事前に利用者の情報を職員に提供し共に検討しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は前年度に比べ、休暇を1日増やし、なおかつ勤務状況と兼ね合いを考えつつ、今後も増やせないか検討している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の経験が無い職員にはなるべくその機会を設け、無資格者には初任者研修の受講をすすめるなど、何らかの資格・自信をもってもらうようにしている。また、職員の経験年数や実力に応じたステップアップになるべく研修の情報を積極的に現場へ発信している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>北区グループホーム協会での会合や勉強会があり、意見交換会をすることで、ネットワーク作りやサービス向上への取り組みに活かしている。 研修や実習で関わる事ができた同業者の施設へ訪問する機会を作り、意見交換やサービスへの取り組みを参考にし、自施設においてサービス内容や業務内容に活かしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの訴えや要望を傾聴し、受け入れて、援助内容に取り入れるようにしている。言いにくい方、聞き出しにくい方には時間を掛けて、日々の関わりの中で、要望(本心)を聞き出せるよう一対一の関係を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が気遣いせずに、要望や不安に思っている事を話しやすい雰囲気作りに努めている。家族の訴えに対し、職員間で共有し、すぐに対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に聞いていた意向、希望を含めて、今、必要な支援は何かという事を随時、職員間で話し合っている。緊急性を見極め、法人全体で支援を行い、その上でサービスに繋がるよう対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が「何か手伝いまほそうか」など話してくれ、職員と一緒にしてくれるなど、利用者と職員がお互いに支え合う雰囲気があり、利用者の気持ちに対し、感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には居室や談話室にて一緒にゆったりと過ごしてもらえるように配慮している。また、行事や家族会の際には、家族を招いて、一緒に楽しんでもらえるようにしている。なかなか面会に来られない御家族に対しては、ケアプランの説明の際に本人の気持ちに即した希望をお伝えし、絆を共に作っていけるよう御家族が負担にならないよう配慮し、アプローチしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的で開催している家族会に、友人や知人が参加されている。また、知合いの訪問美容師が定期的に訪問され、馴染みの関係が途切れないように関りを大切にしている。 法人のショートステイやデイサービスを利用していただ方が入所されるケースがあり、行事やイベントを通じて顔馴染みの利用者や職員との交流がある。	入居前からの友人の訪問があります。利用者の希望に応じて、年賀状を出すなど、馴染みの関係継続に向けた支援をしています。利用者の要望に応じて電話の使用についても家族と相談する等、利用者がホームに入ることによって関係が途切れないよう支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者、一人ひとりの性格を把握し、トラブルや孤立しないよう、時には職員が間に入ることで人間関係をより良く保っている。 一対一の間関係を大切し、傾聴する機会を持つよう心掛け行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された他ユニットの利用者の家業であるクリーニング店を引き続き利用し、関係を継続させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時には、本人や家族から、これまでの生活歴などを聞き、なるべくこれまで通りの生活に近い形で過ごせるように取り組んでいる。また、日々の暮らしの中での気づきや変化を記録、共有し、一人ひとりに合わせた支援が行えるよう取り組んでいる。 困難な場合にも御家族から生活歴や性格などを聞き出すことで、本人の希望に沿ったケアが出来るよう把握に努め、検討している。	職員は日々のケアの中で、できるだけ利用者の思いを受けとめ、利用者本位のケアに繋がるように努めています。認知症に随伴する利用者の様々な言動・行動の要因を把握するために、生活歴や習慣を家族や関係機関から丁寧に聞き取り、対応方法を検討するなどその人の思いや意向に寄り添うように支援しています。ホーム内での居酒屋の計画もその一つです。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や思い出話し等を、本人や家族の会話の中から汲み取り、それを元にフェイスシートを作成している。以前に他のサービスを利用されていた際は、その事業所の協力を得て、情報を提供してもらえるようにする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子をケース記録に記入し、状態の変化や気づきなどを職員で共有している。変化が見られる時などは、その都度カンファレンスを行い、援助方針を検討する。同時にケアプランにも反映させていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>担当スタッフが1度に全員集って話し合うという事は難しいが、カンファレンスを何度か行ったり、ケース記録を通じて、その時に得た状況(情報)により意見交換し合うことで、より良いケアにつなげている。その上でケアプラン作成、更新、モニタリングを実施している。また、家族にもケアプランの説明時だけでなく、日頃より近況を伝えながら、意思や思いを聴き取り、ケアプランに取り入れるようにしている。</p>	<p>利用者一人ひとりの暮らしの状況、好きなこと、嫌いなことなどを把握し、記録に整理しています。それらをもとに、介護計画を作成し、概ね3か月毎のモニタリング、6か月毎、また、状態変更があった場合に見直しを行っています。日々の日誌は、記録の様式を変更し、目標の評価につながるようになっています。また、できるだけ客観的な記録になるように、記録を簡素化することで、利用者の活動に向けた支援に時間を取ることができるようになりました。また、評価の結果で新たな課題があれば、介護計画に反映しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>各利用者のケース記録にプランに沿った内容が記載されており、日々、実践できているかをチェックしている。その上で気づきやケアの内容の変更(カンファ内容)を記入している。その日に出勤していない職員にも申し送りノートを活用しながら情報を共有し、実践、介護計画の見直しに活かしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>医療連携体制を活かし、法人内にある診療所の内科や整形外科、精神科、歯科等が随時、受診可能である。また、かかりつけ医や希望される医療機関がある場合は、家族の協力を得ながら受診している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事や校区の催しなどに参加している。ボランティアの受け入れや家族、友人、職員の家族が自由に入出りできる雰囲気を作り、様々なインフォーマルな資源を活用できるよう取り組んでいる。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診する際には、本人と家族の意向を聞き、希望される病院や、かかりつけ医を受診している。病院受診までは至らない症状でも、自施設の診療所を受診している。外部の病院を受診される際は、家族に確認をとり、家族か職員、またはどちらも付き添っている。</p>	<p>入居後のかかりつけ医の決定は、本人、家族の希望を優先しています。提携医療機関以外は、家族受診の対応を基本としていますが、家族が困難な場合は職員が同行することもあります。週2回の内科・精神科、週1回の整形・歯科などの診医があります。医療との連携により、日常的な健康管理や緊急時の対応が整備されています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で変化や気づきをすぐに看護師へ伝え相談している。それぞれの利用者が適切な受診や看護を受けられるよう早期発見に努めている。また、使用する薬剤の作用、副作用の情報を把握し、より効果的に用いられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院である植木病院の相談員とは情報交換に努めており、独居の不安のある退院者が秀光苑へ入居のきっかけとなったこともある。また、協力病院以外の場合でも相談員と連携を図るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体の状態やADLの低下などは家族になるべく受け入れやすいように伝える事を心掛けている。法人の母体は特養であり、入居の際には基本的に看取りは行わず、特養への移行を勧める旨を伝えている。	「看取りに関する指針」や「個人情報及び苦情及び、医療体制指針」を作成しています。入居時には、医療の必要や重度化した場合、医療機関や併設の特養を紹介することを伝えています。入居後浴槽をまたぐことが出来ない、医療処置の必要が生じた場合には、家族に説明をし、相談をしながら看取りに向けての対応を話し合っています。併設の特養があることが、家族の安心に繋がっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網、入浴時の急変時対応表、体調不良時のチェックポイントを置き活用するようにしている。勉強会などで、職員は救命処置について講習を受けている。また、応急手当や緊急時の対応についても話し合い、マニュアルも目の届くところに配置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に利用者と共に避難訓練を行っている。校区の消防署にも参加してもらい、助言や確認をしてもらっている。その都度、マニュアルに追記や訂正を加え、改善にも取り組んでいる。	併設の特養とともに、2カ月に1回の自主防災訓練を実施し、年2回は消防署の指導を受けています。災害対策として設備面では、スプリンクラー、消火栓、排煙設備、防火扉、ベランダへの避難経路誘導板等が整っています。2階から6階までが居住空間で、災害訓練では、階段を使用しての実践搬送、消火器の使用訓練などを実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーションを図る際、声の掛け方や声の大きさ、表情など意識しながら行っている。また、介助の際、介助される側の気持ちに立った配慮した言葉掛けを心掛けている。カンファレンスを行う際も、なるべく他利用者のいない場で行っている。 苑内の勉強会で人権とプライバシーについて学び確認し合い、人格を尊重した対応を心掛け行っている。	「個人情報及び苦情及び、医療体制指針」の中で、プライバシーや個人情報保護について謳っています。また、定期的に学習会を実施し、安全と自由について、考えることの大切さ、人と人の繋がりの重要性など、具体的な事例を通して、日常ケアに繋がるように工夫をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表し、自己決定できるように働きかけている	職員が断言するような言葉で問い掛けたりせず、まずは利用者の言葉を聴き、本人の意思を優先するように意識している。自己表現が困難な方でも、これまでの関わりや、表情、仕草などから気持ちを汲み取るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつの時間は決まってはいるが、個々によって時間をずらし、本人に合わせている。食事・おやつ以外の時間の流れは決めておらず、その都度レクリエーションや散歩を行ったり、なるべく好む時間に入浴をしてもらったりして、個人に合わせた時間を過ごしてもらっている。 また、行事やレクリエーションの参加も無理強いせず、一人ひとりのペースを大切にしたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時、また外出時など、その都度意識して、その人と会話をしつつ服を選んだり身だしなみを整えたりしている。家族の方とも相談しながら、本人の好みの色やデザインの衣類を用意するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方にも行える範囲で食事の盛り付けをしたり、調理場まで職員と一緒に食事(食材)を取りに行ったり、協力しながら準備を行っている。また、職員と一緒におやつ作りを行い、時には喫茶店に出かけるなど、外食する機会も設けている。 季節のイベントや誕生日会など、その時に合わせ趣向を変えたメニューや手作りのケーキなどを提供して楽しんでもらっている。	それぞれの利用者の箸や茶碗を用意し、一人ひとりにあった食べ方で食事を楽しんでいます。食事の盛り付けを一緒に行ったり、食後の食器は各自で流しまで運ぶなど、利用者が自発的に行っており、それぞれの役割を自然に担っています。普段は併設の特養と同じ食事メニューですが、喫茶店に行ったり、買い物で好きなものを購入する機会も設けています。朝食、夕食は、ユニット内で調理をし、利用者と一緒に食卓を囲んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食事を食べて量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事摂取量を記入し、毎食食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせ、口腔ケアの声掛けや部分介助を行っている。定期的に口腔ケア用具の確認も行い、必要なものは用意している。また、毎週水曜日にしか受診がある為、義歯の不具合や、口腔内の悩みなどある方は医師へ相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力でトイレへ通う事が困難な方、排泄の意思表示が困難な方は排泄チェック表を記入し、排泄の間隔やパターンを把握して、その方に合わせたトイレ誘導を行うようにしている。それに伴い、排泄の失敗を少なくする事で、なるべくパット等を使用しない方向に出来るように取り組んでいる。	日中と夜間の介助方法などを変える等の工夫をしながら、身体的な介助がかなり必要となっても、できるかぎりトイレでの排泄をめざし、支援しています。排泄介助を好まれない利用者には、タイミングを見計らい、言葉を選んで誘うなど羞恥心に配慮した対応を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に合わせ、ヨーグルトやオリゴ糖の摂取、毎朝、体操をすすめることで体内・外から働きかけるように工夫している。 また、排便チェック表を記入し、看護師へ排便状況を伝え、内服のコントロールも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があった際には、毎日でも入浴を行えるようにしており、また、なるべく本人が望む時間に入れるように調節している。介助が必要な方も、その時の体調や気分を考慮しながら、2日に1回は入浴を行えるようにしている。	入浴を好まれない利用者には、無理強いせず「衣類交換だけでもしましょう」と伝えながら、その方の気持ちに副った支援をしています。かつて夜間入浴や毎日の入浴を望まれる利用者に応じた支援をしていたこともあり、希望があれば、それに応じた時間帯や回数の変更への配慮も意識して行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息、安心して 気持ちよく眠れるよう支援して いる	個人に合わせた寝具の用意や、 室温の調整を行っている。夜間帯 だけでなく、日中も状態に合わ せて、横になって休む時間を設 けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	利用者一人ひとりの服薬の内服 や作用の記載された表を、すぐ に確認できる所に置いている。 服薬忘れのないよう、薬の管理 方法を工夫し、チェック表を記 入している。服薬が追加された 際には状態の変化を観察、ケー ス記録に記入し、看護師へ報告 している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	塗り絵などすすめ、出来上がった 作品を居間に展示し、達成、満 足が得られるように働きかけ る。また、利用者の方が自らす すんで食後の食器洗いをし、洗 濯をたたむ際には数名が集ま ってきて手伝ってくれ、自身 が出来た事を自然と行っている。 利用者同士、協力し合う場面 も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気候に合わせて、数名、近所や玄関先、散歩へ出掛ける時間を作るようにしている。また、利用者からの要望があった際には、職員付き添いで近隣の店まで出掛け菓子類を購入している。家族の協力を得て、外出や外食する機会もある。	事業所として活動面に力をいれて支援していることもあり、つつじ見学、プロ野球のナイター観戦、校区の各種イベント、かんぼの宿に日帰り入浴、奈良公園への遠足など、毎月さまざまな外出支援をしています。体調面などで本人が外出を望まれない場合も、近くの喫茶店に行ったり、ベランダや玄関先などに出て、外気に触れながら気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持し、使えるように支援している	金銭を自己管理している方は4名である。自己管理が困難な方は、普段は職員が管理しているが、行事や外出時には職員が見守りながら、なるべく本人に行ってもらえるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をし、手紙のやり取りができるように支援している	施設に設置している公衆電話を自由に使用してもらっている。自力で電話をかける事が困難な方でも、職員が電話をかけて、いつでも家族や知人と話す事ができるようにしている。 携帯電話を持っている方には、自由に、好きな時間に家族に電話をかけられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や時間に合わせて、居間や居室の明るさや室温を調整している。共有スペースの居間には季節の花や行事等の写真、雑誌や新聞を置き、家具などの配置もその時の状況に応じて、その都度 配置替えを行っている。	日常的に利用者も使用するエレベーター内やホールには、壁面装飾や植物があり、季節を感じられるようにしてあります。また、皆が集まるリビングには、日々の行事の写真が飾られ、水槽も置かれていて、ゆったりできる空間作りがされています。リビングの隣にはピアノやテーブル、水回りなどのある準共有空間としての談話室があり、行事や家族との面会時など、場面に応じて過ごすことのできる場所があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれ、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際は席を決めているが、それ以外の時間は自由に座ってもらっている。肘掛け椅子の配置を検討したり、小テーブルを利用したり、一人一人の居場所が確保できるようにしている。居間に二人掛けのソファを設置し、自由に使用してもらっている。また、居室のある階の廊下に椅子を設置し、利用者同士で座ってゆったりと過ごせる空間づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居されてからも、家族や本人と話しながら、本人が自宅で使用していた家具や馴染みの物を持って来てもらい、なるべく自宅で過ごしていた時に近い環境で生活できるようにしている。また、身体の状態に合わせ、転倒などを防ぎ安全に過ごせるよう、その都度、居室内の配置を工夫している。	家族に働きかけをして、使い慣れた馴染みのダンスや鏡台を持ち込んでもらっています。また、夫の位牌を大事にしている方、家族の写真を飾っている方、花や植物を置いている方など居室にはそれぞれの好みのものが置かれています。広さの異なる居室があり、空間も広いため、少し殺風景に感じられる部屋もありますが、職員は少しずつその人らしさが感じられる部屋作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間や居室だけでなくトイレや浴室内も、なるべく自力で安全に入れるように置物の配置も状況に合わせて変えている。自力で活動できるが場所の理解ができず困惑するため、また安全を確保する為に「トイレ」など貼り紙をしている。		